

逆転負け、主将が話す敗因

入りがよくなくて、また失点してしまったが、3点取ってチームの方向性がバラバラになってしまった。前線は点取りに行っていて後ろは守ろうとしていて、その分ま間延びしてしまってそこをうまく使われて失点した。(ハーフタイム)前線からのプレスをしっかりやるということ、次の1点が大事だという話。引いているわけではないが、前にでなくなってしまった。試合中に自分が気づけなかったのが悪かった。(パスを回される)前半は行くこと行かないことははっきりしていたので回させてというシーンもあったが、後半は意識の違いでフリーになってしまう選手もいたし、ドリブルで入られるシーンもあったので改善しないといけない。(攻撃がうまくいかない)うちの強みは両サイドなので、今日は小牟田が居なくてやま(山本)が競っていたが、その背後やサイドの足元をうまく使えればよかったが、パスが雑で入らなかったのと、ヘディングも勝てなくてリズムに乗れなかった。(改善点)チームとしての方向がぶれてしまっているの、そこをまず4年生が話し合って改善していかないといけない。



碓井鉄平主将

得意のセットプレー

今季はセットプレーが大きな武器となっている。ここまで全18得点中実に8点がセットプレー関連のゴール。半数近くを上げていることになり、大きな武器であると言えるだろう。さらに、得点者を見てもパターンは様々。相手にマークを絞らせない強みを生かし、セットプレーからゴールを量産している。

セットプレー得点者	
小牟田	3ゴール
山本	1ゴール
若山	1ゴール
平尾	1ゴール
斉藤	1ゴール
伊藤	1ゴール

良質なボールを供給するキッカーがいることが、得点が増えている要因だ。右利きの碓井と左利きの田中が、互いに蹴り分けともに3アシスト。二人のキックで3分の1の得点を生み出している。他大学にも駒大はセットプレーが強いという情報は当然入っているだろうが、良いボールが上がると中とぴったり合わせることが出来れば、まだまだゴールを量産できるだろう。セットプレーからの得点は非常に効率的。セットプレーを与えたくない相手と思えば、また流れの中で攻撃が生きてくる。



▲去年のアシストランキングで2位に入っていた田中。今季は得意の左足を生かし、ここまで3アシスト。さらに数字を重ねていくことだろう

欲を言えば流れの中からの得点を増やしたい。チャンスは多く生み出すものの、最後に決めきれないことが多く、選手も反省にあげている。自分たちのサッカーがきちりできていれば勝てる、その自信は確実にあるはず。よりゴールを目指し、得点を増やしていけば、昇格もぐっと近づいてくるはずだ。



響いた小牟田の不在

今季6ゴールを上げている小牟田。怪我の影響で平国大戦を欠場したが、その穴は大きかった。結果的には3得点しており、攻撃陣が不発だったとは言えないが、小牟田が居ないことによりヘディングで競り勝つ回数が激減。その結果自分たちのリズムを作れず、相手にボールを持たせてしまう回数が増えた。本来は小牟田が競り勝ち、セカンドボールを拾ってサイドに展開する形。それが出来なくなるとセカンドボールを拾われ、スペースを使われてしまう。前線でボールが収まるケースが少なくなり、逆転を許した。東学大戦では復帰予定の小牟田。3連勝と好調な相手を倒すのに、この長身ストライカーの奮起は不可欠だ。ポストプレーでのチャンスメイク、自らゴールを奪う動き両面で大いに期待したい。

(紙面編集: 森下和貴)